

12
5091
7

源氏袖鏡才七

十七 玉うろ

毎 とう絲

同 こそふ

同 印うろ

同 こそたし

同 切うろ

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a large initial letter, possibly 'A' or 'B', followed by several lines of text. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a large initial letter, possibly 'A' or 'B', followed by several lines of text. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

しりねてはうらうらと神くらとあられとみ
まよきこころついで物さうりありておこらひつ
とめらるる海と見始二条の尻れ橋を
見始りて源氏

うらうらと此のまきこころのきそよあ
つねあうらうらとあつむのそらの
まれとまきこころのきこころのまき
尻にまきこころのきこころのまき
ありて見始りて源氏

うらうらと此のまきこころのきそよあ
つねあうらうらとあつむのそらの
まれとまきこころのきこころのまき
尻にまきこころのきこころのまき
ありて見始りて源氏



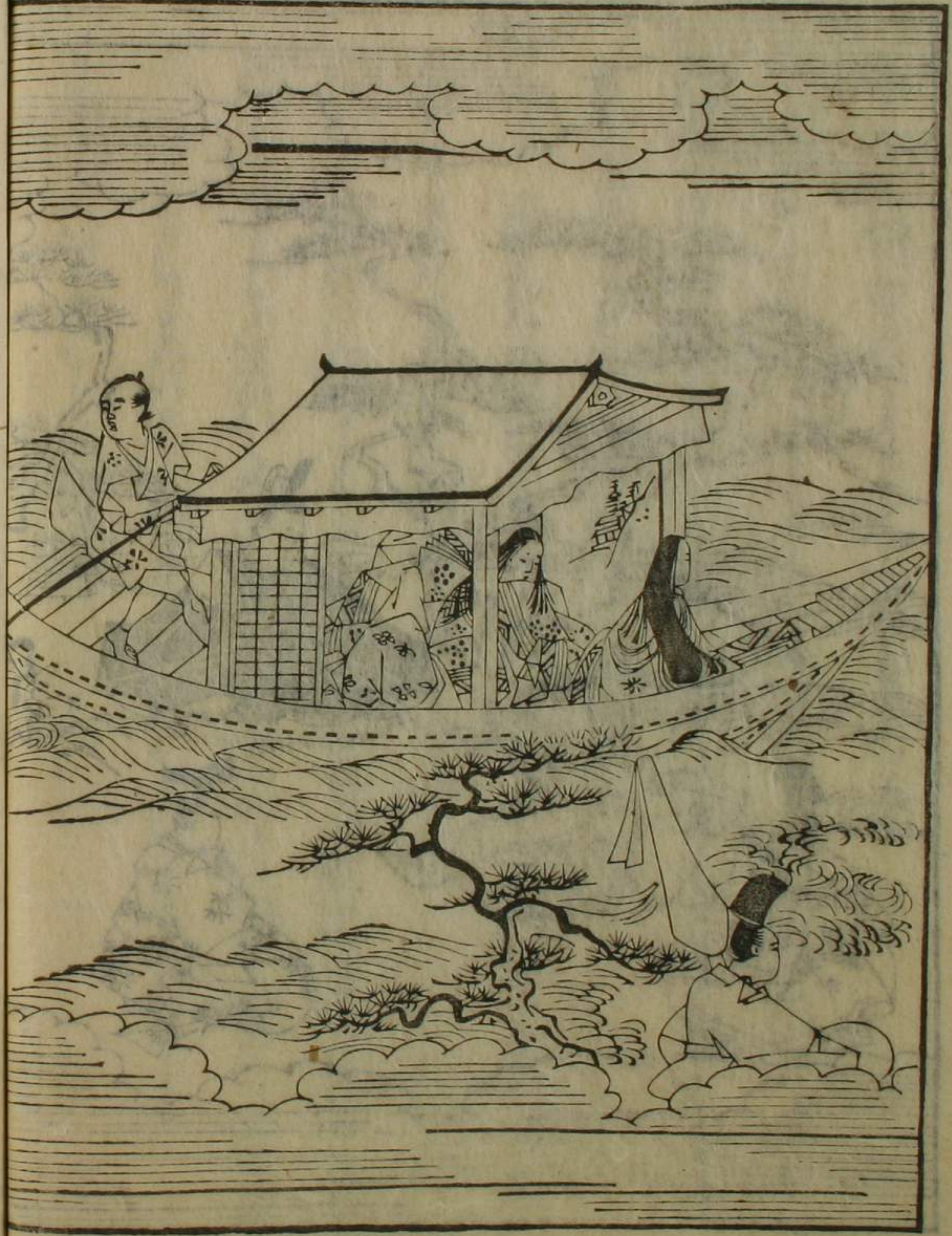
Faint, illegible handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.



並胡蝶

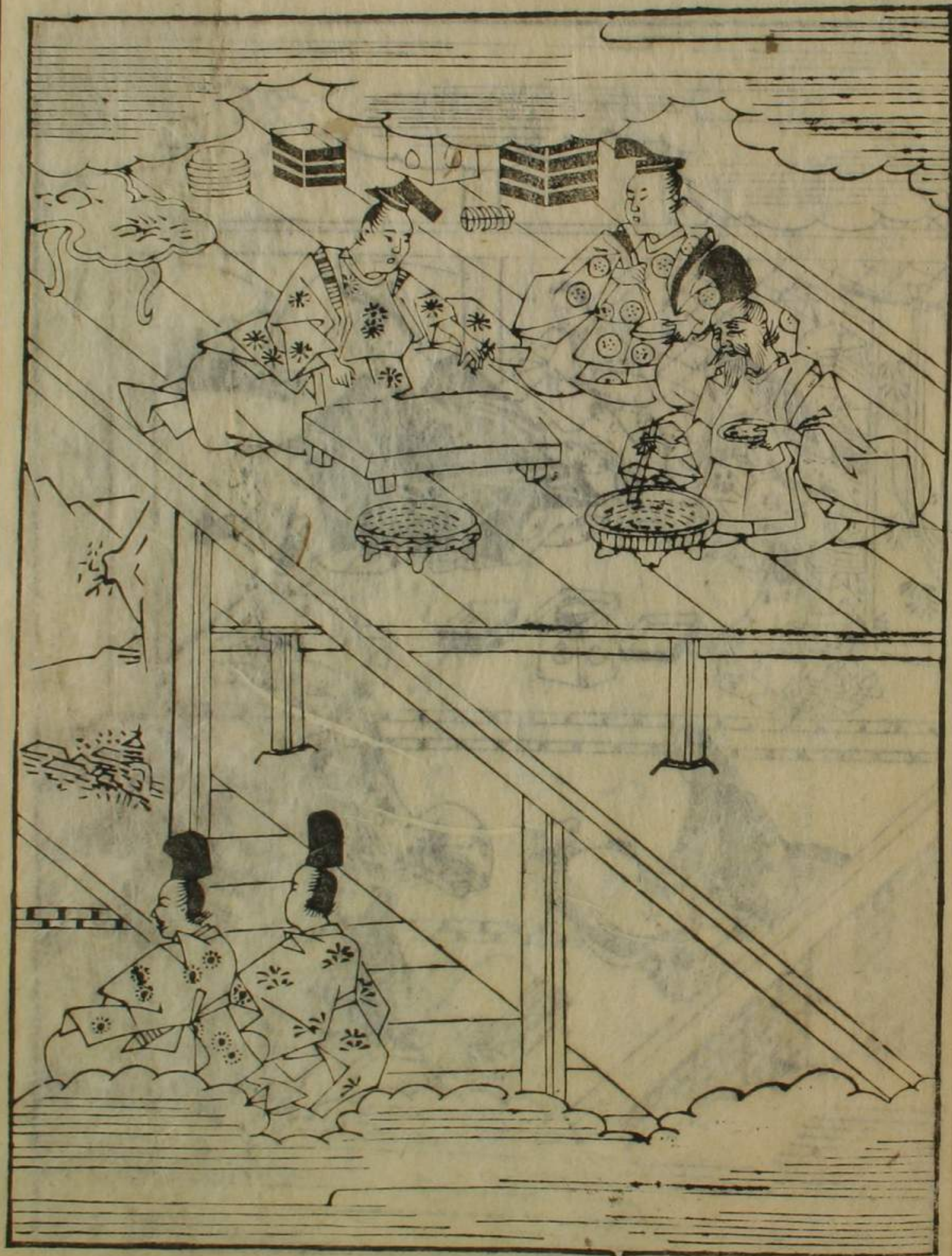
静しん方自あまののけりひまはれつあのみり
 さぬ子よりよまえちねまきしけりよあ
 りのらみほくせあつとつちまきやうそ
 させくおりしちりね日いさつさの人を
 うりわつち女房の物りくまふ紙あよ乃
 せてわらりまね守りくひんつちゆいて
 りんうのおつらこあの内れ女房とあよ
 りあふ

凡あけの派のむきくまんとて、るねまた

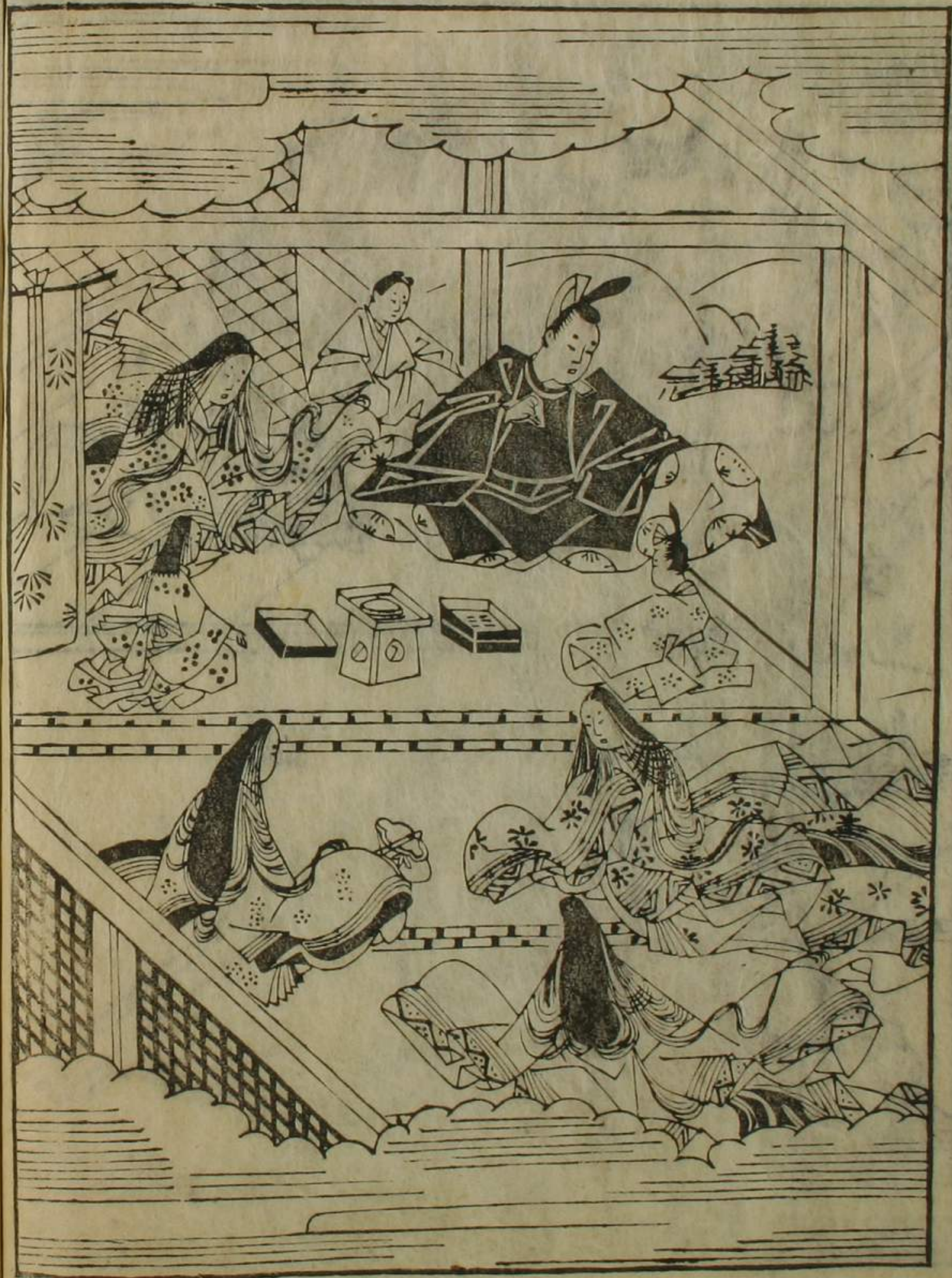


源氏物語

源氏のうらまへはこれにやうとあるのまじい
 お尋ねの君はこれとはくまのり物とのあ
 面より極くはねをさすまれのまじい
 ておろし乃くえおのり源氏たのむり業
 おやどりありあてひりさつ見くしてよき
 ておろし乃くえおのり源氏たのむり業
 おやどりありあてひりさつ見くしてよき
 けいりやうとあおのり源氏たのむり業
 けいりやうとあおのり源氏たのむり業
 けいりやうとあおのり源氏たのむり業



此の文は世の事にて中納言の事と云ふは
 ひろしをたつと云ふは海乃と云ふのうら
 らみしをたつと云ふは海乃と云ふのうら
 ぬののうらと云ふは海乃と云ふのうら
 りのたつと云ふは海乃と云ふのうら
 うらと云ふは海乃と云ふのうら
 と云ふは海乃と云ふのうら



芭蕉火

初風をくく吹そくせとて新よりく
 萩乃をももやうくおきしりより
 源氏をねんまはくむろくのちへん
 わりまよひたといひ寝るうり
 けきそもらわらふれりまむろく
 くらしく酒をれおや乃西あより
 物あひあしとちりそとちりそと
 ちしきまより西へは枕しそ
 ひしり源氏



47 25カ
 のりたよとらそよ糸のきりしとよい
 けしとぬむのとりりなれゆらう
 めあさきやうきしりてようのたうり
 よめりよきうとあつにゆあれうかやめあし
 けんとゆもりりちとのせうとらしてさうし
 きせぬゆらぬりやうきしりてよらあり
 うらうまゆこのまれのふららねゆらう
 うめりよよとあつにゆあれうかやめあし
 はり初まうりかきりちとあつて



